

# 東海支部と合同で総会開催へ

# 三翠化学会

(題字は稲川先生)

第20号  
発行  
昭和59年3月10日  
三翠化学会  
津市上浜町1515  
三重大学農学部内  
農芸化学科  
振替名古屋9-59345  
電話津(0592)32-1211  
印刷(株)ある  
名古屋(052)332-0861

## 五十九年度 三翠化学会総会

### 四月十五日名古屋にて開催

昭和五十九年度三翠化学会総会、四月十五日(日)、東海支部総会と併せて開催致します。万障お繰り合せの上、ご出席いただきますようご案内申し上げます。

当日は、午前十一時より三翠化学会総会を行い、引続き三翠化学会総会及び東海支部総会を兼ねて開催致します。終了後は三時頃の予定にてお出掛け下さいますようお願い致します。

## 話合いの輪を 広げよう

### 会長御挨拶

春暖の候、会員の皆様方には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。さて、右記のご案内のように昭和五十九年度三翠化学会総会、東海支部の御協力を得て、東海支部総会と合同で開催することになりました。三翠化学会も、発足以来十一年になり、支部も東海支部、東海支部、三重支部、さらには本年二月には、かねてから念願の関西支部も関係各位の御尽力により設立されましたことは、誠に御慶びの至りでございます。私は以前より同窓会と言ふものは、会員の皆様方全員がきたなき意見を出し合って参画していただくことが発展の道と考え、役員、評議員各位のご協力の基に、この点を検討して参っております。

これは、いろいろな方法があるかと存じますが、その一つは、毎年開かれます総会のあるところを、隔年または三年に一度は、それぞれの支部総会と合同で本部の総会を開くことを考えました。そこで今回は、東海支部総会と合同で開催することを計画いたしました。こうすることにより、遠隔地の会員諸氏と親しくお目にかかるといふことにより、中広い意見が伺えるものと期待致しております。

幸い名古屋は、地理的にも便利で、また、ご案内のごく駅前会場を設けていただきましたので、どうかお気軽に多数の方々のご出席を願ひ、懇親会の上でも、三翠化学会に對し

まず、色々なご意見を賜りますれば、誠に幸甚に存ずる次第でございます。尚当日は、恩師にもご来席をお願い致しておりますので、一人でも多く友人お誘い合せの上、盛会になりますよう、ご協力の程、切にお願い申し上げます。

三翠化学会会長  
岡田 芳次郎

左記の要領にて、関東支部総会を開催いたします。

一、三月三十一日 土曜日  
午後六時三十分より  
一、数寄屋橋ニュートキョービル 九階  
中国料理「ロン」

千代田区有楽町二二二一  
〇三五七二一五七二一  
幹事 春日 健(日回生)  
日本コカコーラKK 横浜市  
緑区池辺町四二七三〇〇四  
五一九三一四九四一  
自宅 八王子市片倉町一三  
七九一四五〇四二六三  
五二六二七五

八月に、三重大学演習林で開演演習は、三重県美杉村の山奥で、その宿舎は数年前に新築

## 支部会開催予告!

勿論のこと、たまたま上京された諸先輩方も、ぜひ御参集して下さい。

三翠化学会  
〇五九二二三  
一〇五九二二三  
一〇五九二二三

三翠化学会関西支部規約  
第一条 本会は、三翠化学会関西支部と称する。  
第二条 本会の事務所は、原則として関西地区内におく。  
第三条 本会の会員は、関西地区内に居住または勤務する者および当該支部設立の趣旨に賛同する三翠化学会会員であるものとする。

区内に居住または勤務する者および当該支部設立の趣旨に賛同する三翠化学会会員であるものとする。

追記  
関西支部では、支部設立を機に会員名簿を作成するつもりでしたが、支部設立総会への出欠の返事(勤務先や住所の確認も含む)を頂かなかつた方が多数おられ、名簿作成に支障を来しております。未だ連絡をしておられない関西支部の会員諸氏は、現在の正確な住所などを把握するために、ぜひ専門一回の松村昌美氏までお知らせ下さい。【東大阪市長堂丁目85〇六 一七八二二三三六〇六】

追記  
関西支部では、支部設立を機に会員名簿を作成するつもりでしたが、支部設立総会への出欠の返事(勤務先や住所の確認も含む)を頂かなかつた方が多数おられ、名簿作成に支障を来しております。未だ連絡をしておられない関西支部の会員諸氏は、現在の正確な住所などを把握するために、ぜひ専門一回の松村昌美氏までお知らせ下さい。【東大阪市長堂丁目85〇六 一七八二二三三六〇六】



三翠化学会関西支部設立総会  
三翠化学会関西支部設立総会  
三翠化学会関西支部設立総会

引き継がれ、嶋林教授の首領で声高らかに乾杯しました。三翠化学会関西支部長渡辺和巳氏(専一)のユーモラスな挨拶も交え、今西勝氏(専一)の奏でるハモンドオルガンの美しい音色をバックに、アルコールも進み、会場の雰囲気は明るく賑やかになりました。会員の紹介もあり、又、個人の自慢の歌までとび出し、クラスを片手に久しぶりの再会に感激する人、緊張気味だった若い人々もようやく雰囲気にとけ込み、佐野恒平氏(専一)リードの校歌斉唱で、元氣よく歓声を張り上げ、いやが上にも会は盛り上がりました。パンサイ三唱で、全員が設立総会を祝福し和気あいあいのうちに閉会と相成りました。最後になりましたが、本部の御指導、発起人として度重なる準備打ち合わせに御協力願ひました皆様諸氏、当日何かと御世話下さいました諸氏に、深く深く感謝し、厚く御礼申し上げます。石井専一(専一)記。

第五条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。  
① 会員相互の連携と情報交換に資するための事業  
② その他必要な事業  
第六条 本会に、次の役員をおく。  
① 支部長一名、副支部長二名および幹事若干名  
② 支部長、副支部長は総会において選出し、幹事は支部長が委嘱する。  
③ 支部長は会務を総括する。副支部長は支部長を補佐する。幹事は、会務を処理する。  
④ 役員は任期は二年間とし、再任を妨げない。ただし、補充役員は前任者の残任期間とする。  
第七条 本会に、次の会議をおく。  
① 総会および役員会  
② 総会は、必要に応じて開催し支部長が招集する。  
③ 会議の議長は出席会員の互選により、議長は出席者の過半数で決する。  
④ 総会は、規約に関する事項、その他必要な事項を審議する。  
第八条  
① 本会の経費は、会費およびその他の収入をもつて充てる。  
② 会費は、必要に応じて徴収することができる。  
附則  
① すでに組織された三翠化学会関係のそれぞれの組織については相互補完の関係を維持し努める。  
② この規約は、昭和五十九年二月四日から施行する。

総説

エネルギーと

バイオテクノロジー

大6回生 松尾次雄

石油危機から早くも十年、石油需要の減退から価格もこのころバレル当り二十九ドル前後におちついて、エネルギーに関する限り小康状態となっている。このような状況は世界経済の停滞に加えて、いわゆる省エネルギーや石炭・原子力などの代替エネルギーへの切替えによってたらされたものであるが、それでもまだ世界のエネルギー需要の約半分を石油に依存している。

あと数十年しかもたないといわれる石油がなくなったらどうするか。やはりそこは石炭・原子力・地熱・太陽・バイオマスなどを動員するほかないといのが現在の結論で、筆者の勤務するNEDO(新エネルギー総合開発機構)もこれらの技術開発を目指している。

さて、この数年わが国でもバイオマスエネルギーが注目をあび、研究が行われるようになってきた。手近にある再生可能な資源であったらば当然のことです。しかしながら代替エネルギーの多くは大きな問題をかかえています。それをひとりで言ってしまうと、石油に比べて単価ばかりでなく資源利用効率の面からも算盤に合わないといふこと。物質の保有するエネルギーを利用するために投入しなければならない資材や労働力の効率的な思いの多いのです。バイオマス資源である木材やワラを例にとつてい

新ボイラを積んだかつての自動車の例を持ち出すまでもなく、炉やボイラなどへの設備投資がかさみ自動化もしくい、かさばって集荷や利用場所への輸送コストが高いなどの問題点があります。また、農産物の場合にはそれを生産するための土地やエネルギーの利用効率も考えなければなりません。このようなことからバイオマスエネルギーの役割は将来的にも補完的なものととらざるであらうといふ人もいます。しかしこのことは、逆に効率的なバイオマス確保手段が見出されれば、また、バイオマスを利用しやすいエネルギーの形態に変換することができればその将来は大きく開けてくることを意味しています。

よく知られている例としてバイオ燃料用アルコールがあります。ブラジルにおいては一九七六年以降、国家計画のもとに砂糖きびを原料とするアルコールの大増産を推進し、いまでは年産七百万リットルの自動車燃料の三分の一以上をまかなうまでになっています。このことは条件さえ整えば、バイオマスが重要なエネルギー源になりうることを社会的に実証したものと見えます。ブラジルのこのシステムは豊かな大地と労働力を背景として進められてきたものですが、これに刺激されて東南アジアの国々でも小規模ながら社会的な実験が行われています。またアメリカでは余剰農産物を

題となります。メタン発酵の見直しもそのひとつであり、繊維質材料のアルコール発酵もそのひとつです。最近の目覚ましいバイオテクノロジーの発展をみるに、これまで経済的に不可能とされてきたことを新しいバイオ変換技術が可能にするのではないかと期待がふくらんできており、NEDOでも昨年からの燃料アルコール研究組合と共同で新しいアルコール製造技術開発に取り組むことになりました。従来のアルコール製造に関する技術体系を例えれば遺伝子組換え技術などで見直してみようというわけです。

このような技術開発研究が実際に結びつくのはまだまだ先のことも知れませんが、新しいバイオインダストリーが二十一世紀に花開くことは大いに期待してよいのではないかと、またそのように努めなければならぬのではないかと、思う次第です。

科研製薬

大15回生 内田勝啓

「科研製薬」のルーツは財団法人旧理化学研究所(旧理研)であり、戦後の理研が解体され昭和二十三年「株式会社科学研究所」(昭和二十七年「科学研究株式会社」)に改組された。昭和五十七年、兄弟会社「理研化学」と「科研製薬」が合併して「科研製薬」として現在に至っております。旧理研については、昨年文藝春秋社から発売された「幾分話題を呼んだ」科学者たちの自由な楽園」という本に詳しく書かれております。菊地大蔵、池田菊苗、長岡半太郎、本多光太郎、藪田貞次郎、寺田寅彦、鈴木梅太郎、朝永振一郎、湯川秀樹などが研究員として在籍していた、日本の近代科学のルーツである。と、会社案内には書かれています。東京駒込の本社、東京研究所の一部は正時代の理研の建物を現在も使用しており、大公孫樹(オオイチ

ヨウ)にかこまれ、蒼然とした佇みです。また、敷地・建物には著名な先生方の思い出が語り継がれております。旧理研に在籍していた関係で、先日、他界された武見太郎先生が医師会長退任後、顧問としておられました。事業内容は医家向医薬・農薬・動物薬・一般薬・工業薬品・放射線製剤・食品・飼料添加物などの製造販売です。東レ・昭和電工・サントリイ・英国アイツ社などと技術提携関係にあり、現在共同開発している薬物もありです。当社と、三重大との関係で身近な例では、定年退

職場紹介

ポツカコーポレーション

大24回生 山本兼史

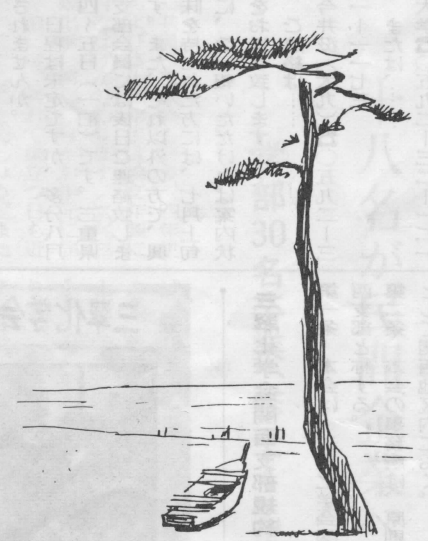
ポツカと言えは、今もってレモンと呼ばれる程レモンで知られていたのですが、現在は会社として、びん入りレモンを製造、販売したのが始まりです。当時スタンダードバーなど、革や現状について記しておきた

創業者、昭和三十三年二月で現谷田社長が、カクテル用レモンとして、びん入りレモンを製造、販売したのが始まりです。当時スタンダードバーなど、革や現状について記しておきた

立って新製品を送り出して来ました。特に昭和四十七年、他社に先駆けて発売した缶入りコーヒーは、その後当社が、独自に冬期ホット販売もできるホット&コールドの自販機を開発、展開し、瞬く間にヒット商品になりました。現在、この缶入りコーヒーは、誰もが気軽に飲める飲料として幅広い層に親しまれています。大いにもはやされたものです。この市場への参入企業も後を絶たず、年間三十億を越える商品が消費されており、

はコーラ飲料に匹敵する市場になっております。その他「缶入り紅茶」「アイスコーヒー」「つぶ入りオレンジ」を始め、健康食品の「フルーツ」(アメリカサンサイト社と技術提携)の数々を製品化してきており、飲料市場のトップメーカーの一つになっております。これらの製品は、自販機や店頭で見かけられる方も多いと思います。

一方で、当時より海外進出も積極的に進め、五十二年にはシンガポール工場を、五十六年には中近東クウェートに販売会社を設立し、現在では、アメリカを始め、世界各国へ商品を輸出しています。又、当社の沿革で言いつれてならないのが、五十七年三月のC・Iシステムの導入と社名の変更です。飲料のみならず「総合食品企業」として発展させるべく、ポツカレモンの社名もポツカコーポレーション



には、中野君(大19卒)が合成マになっております。大26・木野卓哉氏は、この研究室で、入社十年、仕事にも円熟味が出てきて、精力的に新薬開発、合成研究に励んでおり、若手のホープです。緑内障の点眼薬を開発した関係で、眼科研究室が設置されたのが岡本君(大22卒)です。そして、この記事を書いておられますが、京都府で合成関係の仕事をしております内田(大15卒)です。

先進諸国の福祉の拡大、それに伴う医療費の増大傾向、そうした中で、それらの抑制が最近問題になっており、日本も例外にもれず、政府の医療費抑制、特に医薬品価格の抑制政策により、医薬品業界も冬の時代に入ると言われております。一方、製品の開発費用、期間が増加し、審査規程も年々厳しくなり、研究開発も増々困難な時代になっております。そうした状況の中で、当社の研究開発部門の人数の1%前後を占めるにすぎない三重大出身者ですが、皆さん頑張って仕事を励ましております。

本社は、研究室内に四年前勤務の後、当社開発室で新製品の開発に当たっております。研究室のハード面と異なり、ソフト面での新製品の企画などがメインの仕事になっております。最近の商品開発は、需要予測がつきにくく、多様化する消費者ニーズに、どの様に対応しているのか頭を悩ませる頃です。

ご案内

# 昭和園

名古屋駅 名鉄百貨店 近鉄ビル メルサ

# 教える立場になつて

大31回生 近藤博巳

十数年間の学窓生活に「リリオ」をうち、社会人となり、早くも一年が過ぎようとしております。現在私は、三重県立四日市農芸高校にて教鞭を執っております。昨年四月、赴任の挨拶を全生徒の前ですとすぐ教壇に立ちました。今までの教えられる側と教える側の立場が逆になり戸惑いを感じながらも、あつという間に月日がたちました。

四日市農芸高校は、「四日市」という名から思い起こさせるようなイメージ(煙突、煙、公害)は全々なく、校舎のまわりは緑の多い丘に囲まれております。授業に励むには、たいへん恵まれた環境です。生徒数約七百名、農学科、園芸科、食品製造科、造園土木科各一クラスと家政科二クラス、計六クラスとなっております。農業関係の先生方はほとんどが三翠会の方であります。そして化学会には、

豊田先生と福沢先生私と同期がみえます。今までの色々な経験をしました。まず何といつても一番大きいことは、人を教えることの難しさです。私の受け持っている科目は食品製造、食品化学、応用微生物で、ほとんどが大学で学んだことです。自分ではよくわかっていてもそれを相手に同じように理解させるのが難しいのです。教師はどれだけたくさん知識を持っていても、教える方法がよくなければ

は、生徒には何も伝わりません。授業に行く前は今でも緊張します。授業の予習はこれで十分であるか、きのう聞いていなかった彼を今日はどんな手で授業にひきずり込もうかなどと思案します。

週に一回実験が実習であります。実験は、一年生のときに分析実験の基本操作を身につけました(るつぽを焼いたりします)。二年生は食品の分析を行います。三年生は応用実験です。彼らは授業のときに、でんぷんは、ブドウ糖がながつてできているとならなくてもなかなか理解できていません。イモをおろし金で摺りだんぷんを取り出し、それを酵素で分解しアムを作ることでやっとなり理解できるようになります。

「イモからキャラメルを作ろう」という題で実験を行ったとき、はじめは「なんでイモを摺らないかんのや」とか「ほんとうにキャラメルができるのかな」と口々に言っていました。でもま

がなかつたり……。早く一人前の戦力になりたいなあなどとそれだけでせいぜいはいの毎日です。さて五月にラケットを買いました。社内にテニスコートとグラウンドあり、テニス・ゴルフなどスポーツが大変さかんです。どうせやるなら本格的な腕をめざして……。一月までは仕事の

前の一時間、早朝テニスに参加していました。そして昼休みに三十分間、就業後も気が向けばナイターで……。テニスの合間に仕事をしています。よう

な日もけっこうありました。もう少し季節がよくなったら、また一生懸命やりたいなあなどと温度計をみています。

さて、これからはどうなることかわかりませんが、与えられた仕事をこなすだけでなく、自分で見通しをつけ、計画を立てて仕事をすることができたらと思っています。一人前の社会人めざしてマイペースでがんばりたいです。

すいなりにもキャラメルができるという声がかれました。

一方、加工実習の方では、本当にたぐさんの食品造りを経験しました(たけのこ水煮、ジャム、オレシジュース、モモシロップづけ、茶、トマトジュース、アイスクリーム、クッキー、ハム等)。大学の実習よりも内容は豊富です。これらの実習製品の販売も行います。最近の健康食品ブームのためか売れ残ることはありません。

その他、クラブ、体育祭、農芸祭(文化祭)、球技大会などまぐるしく日々が過ぎてゆきました。三月一日の卒業式がすむと、入学試験があり、四月からの新しい学期がもうすぐ始まります。四月から担任を持ち、生徒とのつながりをもっと深くしていこうと思っております。

以上とりとめのない文ですがこの一年を振り返って思ったことを書かせていただきました。

# 社 会 人

# 一 年 生

## 学生気分脱却

### 目指して

大31回生 金田久代

早いもので、私が卒業してから二年が過ぎようとしています。ということは社会人としての一年が過ぎ去ろうとしているわけですが、社会人としての自覚なんてとてもとても……。未だに学生気分の延長です。大好きな旅が週末にしかできなくなったこと、定期的な給料がはいること、周囲の年齢層が広がったこと、こんなくらいでしょうか、かわったことは、ところで私は四月から台糖ファイザー(株)の品質管理部第二試験課(旧・化学試験課)に配属され知多半島の住人となっています。この

格からはずれていたり、再現性

がなかつたり……。早く一人前の戦力になりたいなあなどとそれだけでせいぜいはいの毎日です。さて五月にラケットを買いました。社内にテニスコートとグラウンドあり、テニス・ゴルフなどスポーツが大変さかんです。どうせやるなら本格的な腕をめざして……。一月までは仕事の

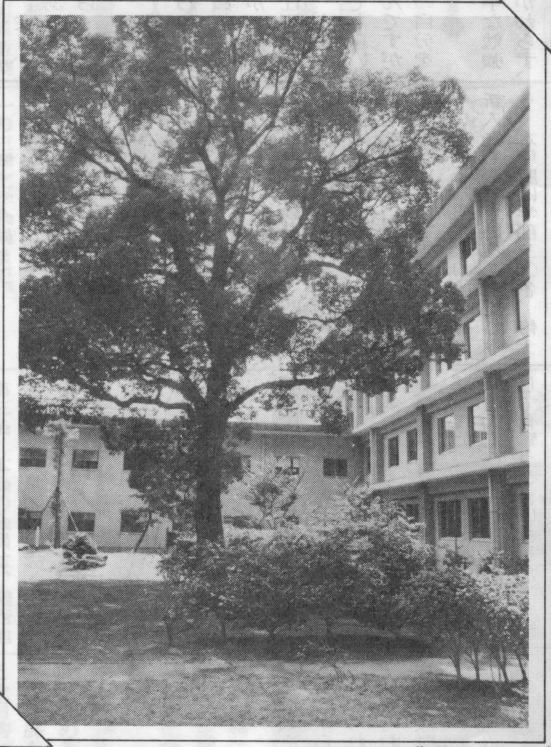
前の一時間、早朝テニスに参加していました。そして昼休みに三十分間、就業後も気が向けばナイターで……。テニスの合間に仕事をしています。よう

な日もけっこうありました。もう少し季節がよくなったら、また一生懸命やりたいなあなどと温度計をみています。

さて、これからはどうなることかわかりませんが、与えられた仕事をこなすだけでなく、自分で見通しをつけ、計画を立てて仕事をすることができたらと思っています。一人前の社会人めざしてマイペースでがんばりたいです。

## 思い出の散歩道

農学部2号館と3号館の間の楠 (昔のグラウンド横の楠)



農芸化学科館



農芸化学科館



三重高農門柱(現在三翠庭園入口にあり)



大学本部



大学図書館



大学図書館

# 私は今...

## 基礎医学を基礎に

### 保健所へ

#### 大30回生 岩崎誠二

昭和五十七年の三月に三重大学の農芸化学科を卒業して以来、私はこの二年間、長野県にありまず信州大学で、免疫学の、主として小児アレルギーの勉強をやってきました。この四月より三重県の保健衛生部の職員となりました。現在の仕事は、三重大学の農芸化学科のみならず、やっておられるような実験はほとんどなく、大部分が行政に関することです。

ところで、信大時代のことで、牛乳を扱っていました。実験内容は、まず新鮮乳を脱脂し、その脂肪を加熱滅菌し、サッカロースとプロピレングリコールを加え、マイナス二十度Cで保存するとアイスクリームができました。

## 中学教師二十二年

### 花咲く学校を

#### 大6回生 西沢寅夫

私は現在、大阪府で中学校の教師をしています。教科指導では理科を受けもち、課外活動では、バレーボールと園芸を受けています。昨春、現任教(大阪市立東中学校)へ転任したばかりで、新しい気持ちで頑張っています。

思えば、三十三年三月卒業であるので、丁度二十六年になります。最初、大阪府貝塚市にある製粉会社に勤務したのですが健康を害したこともあって四年間で退社し、転職したのです。最初の勤務校は、北区にある北野中学校でした。丁度、大阪市理科学研究指定校になっていて「映画、スライド、写真等を利用しての理科教育の推進」がテーマでした。放課後から夜にかけての仕事が多く、苦しく辛かったです。思えば懐しく、家庭を持っても、早く家へ帰らないう慣れた時代です。

## 感無量

### 専1回生 平野誠

#### 三十五年の軌跡に

階段教室(化学)の黒板に大阪府研究所と三ヶ日女学校二つの就職先が書かれていた。研究所か、どんな研究をやるかな? 勉強は続くが能力発揮一寸面白そうだな。まてよ、若い女学生に囲まれた教師生活も悪くないな。どちらにすべきかと不安を交錯させ迷った末、結局滝先生に同行して戴き伊丹市の研究所の門をくぐって早や三十五年の歳月が流れてしまった。長いようで短い、未だつい先日夢と希望に満ちて入った研究所も入社と同時に閉鎖になり、隣の製菓工場がガム・キャラメル等の製造を若い女工さんと一緒に製粉や炭酸カルシウムにま



# 祇園のバーで大騒ぎ!!

## 専3クラス会



クラス会の間隔が十年、五年、二年とだんだん短くなってきて今回は昨年十一月十二、十三の両日、京都東山の吉水庵で十六名が参加致しました。

準備らしいこともしないのに呑んで朝まで語り明かしても、未だ足りない感じが強かったクラス会に比べて、今回はすっかり様相を変え、TPOにピッタリ適応した我がクラスメイトの勇ましいこと。

準備側としては、津市農協の京都旅行程度と踏んで待ち構えていたのは大変な心得違いでした。宴も終りに近づいた頃、幹事の、祇園のバー(案内しろ)との強い要望で、真夜中の祇園の強い出、某幹事おなじみのバーへ。ところが途中で「スーさん、ウチへ寄っておくれよ」と強引に連れ込まれ、ハンゴ。時間とともにメッキがはがれ、地が出て、大騒ぎ。

思いがけなく声のよい大学の先生、真話豊富なお医者さん(阪大医学部卒)、物凄いギャグの会社役員、酒と○○はおまかせの工場長等に加え、最も驚いたのは、南国のガソリンスタンド様の怪しげなところを腰を据え、マイクを身を滅ぼしそうな身振りでお役人へ「変れば変わるものであります。前夜のハッスルもなきが如く翌朝は元気に、紅葉満ちる永観堂、南禅寺、知恩院を散策し、高尚風雅を重んじたものであります。次回は昭和六十年初秋、会場

## 十八名が民間企業へ

### 学部30名卒業、修士4名修了

共通一次試験も終り、四年生および修士二年生は論文作成に日夜はげんでおります。この「三翠化学」第二〇号がお手元に届く頃には、晴れて巣立つ日も近づいていることでしょう。また新入生も決まっていることですよ。本年度は学部三〇名、修士四名が卒業あるいは修了致しました。学部卒業生は大三十三回生として我々の会の仲間入りなりました。学部卒業予定者三〇名

は、民間企業に十四名、公務員三名、教員二名、進学十名。修士修了予定者四名は、全て民間企業へそれぞれ進路が決っております(◎参照)。就職に関しては、毎年のことながら会員諸氏にご尽力していただきまして有難うございました。今後共よろしくお願致します。

昨年四月一日、奈良、北岸両先生がご定年になられ、退職されましたので、現在十六名の教

## 農芸化学科 近況

官で構成されております。昨年十二月から、熊沢先生が農学部長になられ、学部の運営に日夜はげんでおられます。農芸化学科より農学部長が出たのは、十数年前の岩本先生以来のことですが、当時は大学紛争の頃で多

難な時期でありました。現在の農学部はこの大学におきましても、行革のおおりで多くの問題が提起されており、熊沢先生の手腕に今後の農学部の将来がかかっている所です。

(注) 民間企業としては、大関酒造、持田製薬、チッソ、岡崎マルサン、敷島製パン、ヤマザキパン、ポッカコーポレーション、敷島紡績、日本合成ゴム、三菱油化、台糖ファイザー、豊田通商、綜合施設サービス、マルアイ、日本酸素、太陽化学、イチビキ、丸大食品(順不同)などです。

## 会費納入のお願い

三翠化学会は、皆様からの会費で運営されております。会費が集まりませんと会の運営に支障が出てまいりますので、未納の方は、ぜひ送金して下さいませようお願いいたします。(会計幹事)

▽振替番号 名古屋五九三四五  
三翠化学会